

ジェネリック医薬品の国内市場を調査

- ジェネリック医薬品は医療用医薬品全体を上回る伸び 2011年は08年比24.1%増 -

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811）は、医療費抑制を目指し行政による促進策が活発なジェネリック医薬品（後発医薬品）の国内市場を調査した。その結果を調査報告書「2009 ジェネリック医薬品データブック」にまとめた。

この調査では、診療報酬点数表における後発医薬品に属するものをジェネリック医薬品と定義して、薬効領域別、企業別に市場動向を分析し、将来を展望した。今回は、麻酔・筋弛緩剤及び女性疾患治療剤の2領域を追加した26薬効領域（漢方製剤は除く）と、主力参入企業30社を網羅した。

<調査結果の概要>

	2008年	2009年見込	2011年予測	11年/08年比
ジェネリック医薬品	3,608億円	3,918億円	4,479億円	124.1%
医療用医薬品	6兆6,500億円	6兆8,686億円	7兆 770億円	106.4%
ジェネリック医薬品構成比	5.4%	5.7%	6.3%	

医療用医薬品市場に占めるジェネリック医薬品市場の構成比

2008年の医療用医薬品市場は前年比1.5%増の6兆6,500億円となった。そのうち、ジェネリック医薬品市場は前年比8.0%増の3,608億円となった。ジェネリック医薬品は医療用医薬品全体を上回るペースで成長を遂げており、その構成比も年々高まっている。

医療行政においては2012年度までに医療用医薬品全体におけるジェネリック医薬品の割合を数量ベースで30%にまで引き上げるという目標を掲げている。これを受け、処方箋様式や調剤報酬の変更など様々な促進策が実施されていることが、ジェネリック医薬品市場の拡大に繋がっている。更に2009年からは年2回の薬価収載（薬価基準に収載すること。健康保険が適用される）が本格的に開始され、毎年5月と11月に多くのジェネリック医薬品の発売が見込まれるようになった。

また、DPC（診断群分類に基づく医療費の包括請求制度）導入病院の増加も、ジェネリック医薬品市場の拡大に寄与している。DPC導入病院では注射剤等の院内で使用される薬剤を中心に、ジェネリック医薬品への切り替えが進んでいる。

今後も行政によるジェネリック医薬品普及の推進策や、参入企業の積極的な展開によって、医療用医薬品市場が微増推移の中でもジェネリック医薬品市場は年6~9%の成長率で推移し、2011年には4,479億円、構成比は6.3%と予測される。

<注目市場>

1. 降圧剤

	2008年	2009年見込	2011年予測	11年/08年比
ジェネリック医薬品	259億円	315億円	426億円	164.5%
医療用医薬品	8,487億円	8,521億円	8,570億円	101.0%
ジェネリック医薬品構成比	3.1%	3.7%	5.0%	

高血圧症の治療に使われる降圧剤は、医療用医薬品市場の1割以上を占めており、最も大きな市場となっている。Ca拮抗剤、ACE阻害剤、
・ ・ 遮断剤などでジェネリック医薬品が発売されている。2008年に降圧剤の上位ブランドであるCa拮抗剤の「ノルバスク」(ファイザー)と「アムロジン」(大日本住友製薬)のジェネリック医薬品が34種発売され、ジェネリック医薬品の普及を促進させる大型製品としてインパクトを与えた。発売初年から60億円の実績を上げ、2009年は108億円が見込まれる。高血圧症は代表的な生活習慣病であることから治療患者、潜在患者共に多く、今後も高齢化が進むにつれて患者数が増えていくと見込まれる。降圧剤

は長期に亘って服用するケースが多いため、薬価が抑えられるジェネリック医薬品のメリットは大きく、2011年には2008年比64.5%増と大幅な市場拡大が予測される。一方、ジェネリック医薬品が発売された先発医薬品は、服用しやすい口腔内崩壊錠（OD錠）への切り替えなど防衛策を進めているが、苦戦を強いられている。このため、先発医薬品を含めた降圧剤全体では横ばいの推移が予測される。

2. 抗生物質

	2008年	2009年見込	2011年予測	11年/08年比
ジェネリック医薬品	218億円	242億円	280億円	128.4%
医療用医薬品	3,725億円	3,614億円	3,550億円	95.3%
ジェネリック医薬品構成比	5.9%	6.7%	7.9%	

抗生物質は耐性菌の問題に伴う適正使用から処方抑制傾向にあり、市場は減少している。このような中、2007年には「メイアクト」（明治製菓）、2008年には「セフゾン」（アステラス製薬）そして2009年には「クラビット」（第一三共）のジェネリック医薬品がそれぞれ発売されたことで、ジェネリック医薬品市場は活性化している。特に「クラビット」は抗生物質のトップブランドであり、そのジェネリック医薬品の発売は市場にも影響を与えると考えられる。2008年のジェネリック医薬品市場は前年比12.4%増で、2009年も前年比11%増と二桁成長を維持する見込みである。DPC導入病院では注射剤を中心にジェネリック医薬品への切り替えが進んでいることからジェネリック医薬品は売上を伸ばしていくが、抗生物質全体では市場の縮小が続くと予測される。

3. 抗がん剤

	2008年	2009年見込	2011年予測	11年/08年比
ジェネリック医薬品	135億円	185億円	280億円	207.4%
医療用医薬品	6,294億円	6,839億円	7,545億円	119.9%
ジェネリック医薬品構成比	2.1%	2.7%	3.7%	

抗がん剤は、先発医薬品で分子標的治療剤の発売が相次ぎ、また患者数も増加していることから、市場の拡大が続いている。ジェネリック医薬品は、抗がんホルモン剤、代謝拮抗剤、白金製剤、微小管障害剤などで発売されているが、分子標的治療剤は未発売となっている。ジェネリック医薬品市場も大きく拡大しており、2009年は前立腺がん治療剤である「カソデックス」（アストラゼネカ）を始め、「トポテシン」（第一三共）、「カンプト」（ヤクルト本社）のジェネリック医薬品が発売されたことで、前年比37%増が見込まれる。抗がん剤は信用度の問題からジェネリック医薬品の使用が敬遠されがちで、現状では他の薬効領域に比べジェネリック医薬品の構成比が低い。しかし、抗がん剤の薬価が高いことからジェネリック医薬品への潜在需要も多く、製品が出揃うのに伴って更に存在感は高まると予想される。病院での処方がほとんどであるため、DPC導入病院の増加も市場拡大の追い風になると考えられる。

4. 糖尿病治療剤

	2008年	2009年見込	2011年予測	11年/08年比
ジェネリック医薬品	78億円	97億円	139億円	178.2%
医療用医薬品	2,809億円	2,978億円	3,409億円	121.4%
ジェネリック医薬品構成比	2.8%	3.3%	4.1%	

糖尿病は患者数が増加しており、重症例や罹患期間の長期化も進んでいることから、治療剤への需要が増えている。ジェネリック医薬品市場は、先発医薬品の上位ブランドである「ベイスン」（武田薬品工業）のジェネリック医薬品が中心となっており、市場を牽引してきた。そのOD錠が発売されたことで、2008年のジェネリック医薬品市場は前年比36.8%増と大きく拡大した。2009年も24.4%増が見込まれる。また、「キネダック」（小野薬品工業）のジェネリック医薬品が参入企業も多く実績拡大が期待されるほか、2009年には「グルコバイ」（バイエル薬品）のジェネリック医薬品が発売されており、今後の動向が注目される。

5. 体内診断薬

	2008年	2009年見込	2011年予測	11年/08年比
ジェネリック医薬品	84億円	93億円	115億円	136.9%
医療用医薬品	1,409億円	1,388億円	1,364億円	96.8%
ジェネリック医薬品構成比	6.0%	6.7%	8.4%	

体内診断薬は、X線造影剤を使用するX線検査数が減少、先発医薬品からジェネリック医薬品へのシフトなどで、

市場全体としては微減が続いている。ジェネリック医薬品はX線造影剤を中心に発売されており、入院費用における造影剤の薬剤比率が高いことから、DPC導入病院数の増加に伴って需要が拡大している。X線造影剤の「オムニパーク」(第一三共)、「イオパミロン」(バイエル薬品)のジェネリック医薬品が実績を伸ばしているほか、2008年にはMRI用造影剤の「マグネビスト」(バイエル薬品)のジェネリック医薬品が発売されており、新たな需要の開拓が考えられる。2008年の実績は僅かに留まっているが、今後の拡大が予測される。

以上

<調査対象>

薬効領域編(26領域)	企業編(30社)
降圧剤	沢井製薬
その他循環器官用剤	東和薬品
抗生物質	大洋薬品工業
抗ウイルス剤	日医工
抗真菌剤	マイラン製薬
統合失調症治療剤	富士製薬工業
その他精神神経疾患治療剤	大正薬品工業
上部消化管疾患治療剤	日本ケミファ
その他消化器官用剤	共和薬品工業
抗アレルギー剤	日東メディック
喘息・COPD治療剤	ニプロファーマ
その他呼吸器疾患治療剤	明治製菓
高脂血症治療剤	日本化薬
糖尿病治療剤	扶桑薬品工業
痛風・高尿酸血症治療剤	小林化工
解熱消炎鎮痛剤(外用剤含む)	昭和薬品化工
抗がん剤	岩城製薬
体内診断薬	キョーリンリメディオ
麻酔・筋弛緩剤	辰巳化学
女性疾患治療剤	あすか製薬
変形性関節症治療剤・抗リウマチ剤	エルメッド エーザイ
骨粗鬆症治療剤	サンド
消毒剤・褥瘡治療剤	大原薬品工業
泌尿器疾患治療剤	アルフレッサ ファーマ
輸液製剤・経腸栄養剤・ビタミン剤	三和化学研究所
眼科用剤	日本ジェネリック
	田辺製薬販売
	ホスピーラ・ジャパン
	日本点眼薬研究所
	丸石製薬

<調査方法>

富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・団体等へのヒアリング調査

<調査期間>

2009年8月~10月

資料タイトル	: 「2009 ジェネリック医薬品データブック」
体 裁	: A4判 441頁
価 格	: 200,000円 (税込み210,000円)
調査・編集	: 富士経済 東京マーケティング本部 第二事業部 TEL:03-3664-5831 FAX:03-3661-9778
発 行 所	: 株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL:03-3664-5811(代) FAX:03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ https://www.fuji-keizai.co.jp/